

派遣者番号	31K16	氏名	山口 太義
研究主題 —副主題—	ICT機器を活用し、生徒に知識・技能を習得させ、 活用・探究を促す効果的な英語科授業デザイン		
派遣先	東京学芸大学 教職大学院	担当教官	馬場 哲生
所属	江東区立深川第三中学校	所属長	武井 勝久

キーワード：ICT活用 英語教育 知識・技能の習得・活用・探究 授業モデルプラン

1 研究の背景(目的)・主題設定の理由等

文部科学省は英語教育や情報教育の観点から、児童生徒の21世紀型スキルを育成するために、ICT機器を活用した教育を推進している。2021年度の中学校学習指導要領全面実施を見据え、2023年度までに生徒一人一台のPC配備が閣議決定されるなど、学校教育のICT環境整備が進んでいる。民間企業は教育のICT化に先立ち、学習管理システムや、個別最適化を促す学習支援アプリケーションを有料で提供し、多くの私立学校が採択している。しかしながら、公立学校では各自治体によってICT整備状況が大きく異なっている。

文部科学省は教員のICT活用能力向上を課題として挙げ、研修の充実を図っている。一方で、実際は教師個人の努力によるところが大きい現状がある。そのため、教師や生徒が効果的にICT機器を活用し、基本的に無料で運用できる汎用性のある授業モデルの構築が必要であると考えた。

そこで、英語科の授業におけるICT活用のモデルプランを提案することを本研究の目的に設定した。モデルプランは「教師のICT」と「生徒のICT」に分類し、知識・技能の習得、活用・探究を基盤にした学習活動におけるICT活用例を考えた。その際、授業内及び家庭学習における具体的なICT活用場面を提示した。本研究が多くの英語科教員にとって、授業にICT機器を取り入れるきっかけとなり、効果的に生徒の英語運用能力や、学びに向かう力を高めるための一助としたい。

2 研究の内容・研究の方法



- (1) これまでの授業実践と先行研究から、ICTを活用したモデルプランの第1案を作成する。
- (2) 協力者の情報や教師及び生徒のICT機器の活用状況、モデルプランの第1案に対する意見や改善

策などを問うアンケートを作成する。

- (3) Google formsを用い、英語科教員や大学院生を対象にアンケート調査を実施する。
- (4) アンケートで得た回答や意見を質的に分析し、全てのモデルプランについて考察を行う。
- (5) 考察の結果を反映させ、モデルプランの改善案を作成し、提案する。
- (6) ICTの活用方法や留意点をまとめ、ICT活用の現状と今後の展望を述べる。

3 研究の結果

(1) アンケート調査

協力者35名(現職の英語科教員23名、教育実習を経験した英語教育専攻の大学院生12名)

- ① 勤務校種または希望する学校種(選択式)
- ② 教員経験年数(選択式)
- ③ 教師のICT活用の頻度(選択式)
- ④ その理由と具体的な活用方法(自由記述式)
- ⑤ 生徒のICT活用の頻度(選択式)
- ⑥ その理由と具体的な活用方法(自由記述式)
- ⑦ 各モデルプラン(計37個)の第1案に関する意見・改善策(選択式/自由記述式)
- ⑧ モデルプランの第1案に関する全体的な意見・感想(自由記述式)

(2) アンケート調査の結果

図1・図2には協力者の情報を示した。図3・図4には、英語科の授業における教師及び生徒のICT活用の頻度を4段階提示し、回答を得た。

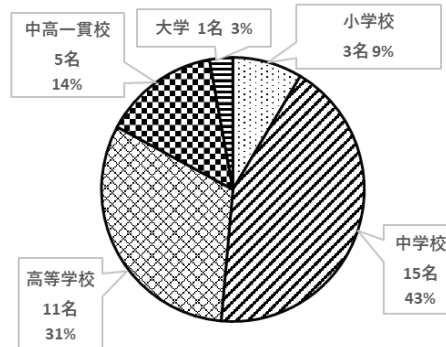


図1 勤務校種または希望する学校種

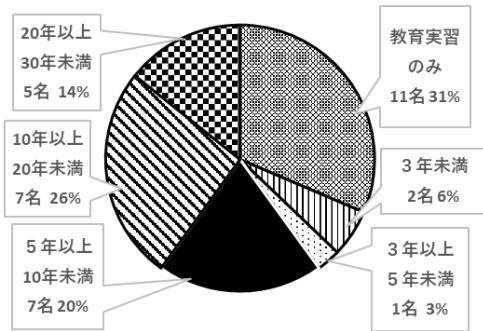


図2 教員経験年数

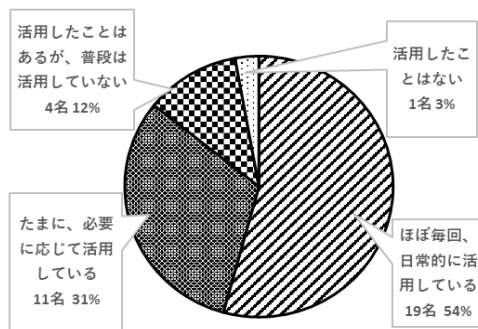


図3 教師のICT活用の頻度

教師が普段からICT機器を活用している理由としては、視聴覚教材として、生徒の英語学習または動機付けに役立つ点や、教師が授業準備や授業を展開する上で、効率的で便利であるという回答が多数挙がった。

一方で、普段ICT機器を活用していない理由として、機器の準備に時間や手間がかかることが挙げられた。学校によっては教師用の機器の不足や、教室内のWi-Fi接続環境が十分に整っていない現状も明らかになった。

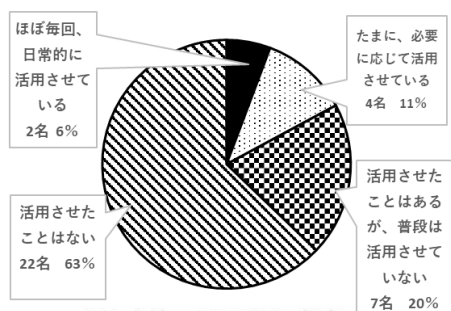


図4 生徒のICT活用の頻度

生徒に普段からICT機器を活用させている教員は少数であった。生徒用タブレット端末の不足や、Wi-Fi接続環境が整っていないことが理由に挙げられた。生徒主体の学びや、生徒のICT活用能力を育成する授業を行うためには、学校におけるICT環境の改善が求められる。また、研修を通して教師自身のICT活用能力向上や、生徒にICTを活用させるための具体的な指導方法を身に付ける必要がある。

(3) ICTを活用した英語科授業モデルプラン

① 学校におけるICT環境について

ICT環境の整備状況は現状では各自治体によって異なっている。そこで、2023年度までに公立学校にも整備されると見込まれる以下のICT整備環境を想定する。

表1 想定する具体的なICT環境

【ハードウェア】	教師用PC、スクリーン、プロジェクタ、生徒一人一台のタブレットPC
【ソフトウェア】	デジタル教科書、Microsoft Office (Word, Power Point など)
【学習管理システム】	Google Classroom
【通信環境】	教室内及び家庭におけるWi-Fi接続

② 英語科の授業について

授業を通して育成すべき三つの観点と、英語の教科指導における三つの場面を複合的に掛け合わせる。以下の大枠が当てはまるように、授業モデルプランを合計36個作成した。

表2 英語科の授業における目標と教科指導場面

学習のプロセス (資質・能力及び評価観点)	教科指導場面
知識・技能の習得 (知識・技能)	言語材料 (新出語彙、新出英文法)
活用・探究 (思考力・判断力・表現力)	題材 (導入、本文内容理解)
主体的に学習に取り組む態度 (学びに向かう力・人間性等)	コミュニケーション活動 (英会話)

表3 具体的な英語学習場面とICT機器を活用した学習内容

英語学習場面	ICT機器を活用した具体的な学習内容	改善案
1 新出語彙 導入	教師によるフラッシュカード作成・活用	① ②
2 新出語彙 定着	生徒によるフラッシュカード作成・活用	③～⑤
3 新出文法 導入	教師による暗示的な新出文法導入	⑥
4 新出文法 定着	文法問題演習、生徒による文法解説	⑦～⑩
5 新出文法 活用	新出文法に関する4技能統合型タスク	⑫
6 教科書本文内容 導入	ビジュアルカードや動画を聞いた口頭導入	⑬ ⑭
7 教科書本文内容 定着	音読、速読、長文読解、内容理解	⑮～⑲
8 教科書本文内容 活用	教科書本文を活用した4技能統合型タスク	⑳ ㉑
9 発表活動	本文内容のRetelling、スピーチ作成、発表活動	㉒～㉔
10 コミュニケーション活動	YouTube、Google Map等を使用した活動	㉕～㉗
11 評価・振り返り	Google Classroomを活用した評価、振り返り	㉘ ㉙
12 家庭学習	反転学習、タブレットを活用した家庭学習	㉚～㉜

4 研究の考察

考察の結果、英語科の授業における教師及び生徒のICT活用例を、以下のとおり分類した。

表4 教師によるICT活用例

(1) 文字情報や画像を瞬時に提示する	(2) 音声聞かせる	(3) 動画を見せる
(4) 生徒に教材を配信する	(5) 生徒の学習状況を把握、評価する	

表5 生徒によるICT活用例

(1) 音声を聞く、録音する	(2) 画像を見る、見せる、写真を撮影する、拡大する
(3) 動画を見る、撮影する	(4) 意見や考えを共有する
(5) 調べ学習をする	(6) 発表活動をする
(7) 学習の過程を記録、蓄積する	

5 今後の展望

本研究は教員にアンケートを実施し、モデルプランを作成したものであり、生徒を対象に効果検証を行っていない。そのため本モデルプランを取り入れ、実際に授業で教師や生徒がICT機器を活用することを通して、効果的に生徒の英語運用能力を高めていきたい。